

長谷川 哲央 氏

力を入れていますと大幅に拡大し、

に続き、

次年度は6コマ



とても効果的で、

山本 翔 氏

福井小松フォークリフト株式会社

http://www.fork-lift.co.jp/ 所 在 地:福井市主計中町13-7

電話番号:0776-91-553 代表者:佐野俊和氏

事業内容:フォークリフトを含む産

業車両、物流機器の販売、

は、 上げ 類を充実させて 類を充実させています。フォや建設機械への安全機器の種 応えるべく、 本格的な展開に向けて立ち 現場のさまざまな要望にりたエウレカ株式会社で フォ クリフト

世の中のニーズに応える商品構成を厚くし

がありましたね」と、展示会大口発注につながるなど成果のの、その後、数百セットの 氏。初年度の1コマでの出展出展での手ごたえを語る西 談になることは少なかったも 客に目を向けてもらう意味で その場で商 販路拡大に

人と物を見分けるインテリジェント・カメラ・システム「ブラクステール」。 歩行者との接触の危険があるときだけ、警告を発します。

この事業を活かしました

新分野展開スタートアップ支援

本県の中小企業者が持続的な成長を目指して経営の多角化や事業 転換に取り組む場合に、設備や販路開拓等にかかる経費の一部を 助成し、新分野への進出を支援します。

対象

福井県内に主たる事業所があって1年以上の事業実績があり、 過去3年間の平均または前事業年度の売上額が年間10億円未満 の中小企業者・個人事業者・事業協同組合

助成率および助成額

新商品開発、施設・設備、販路開拓にかかる費用

補助率:2/3以内

助成額:100万円~1,000万円

【お問い合わせ】

(公財)ふくい産業支援センター ふるさと産業支援部 資金支援グループ

TEL: 0776-67-7406 FAX: 0776-67-7429

従業員数:30名

レンタル及び修理

たことは大きかったです。顧などと直接話せる機会ができし、大手企業の安全性担当者ある国際物流総合展に出展 支援センタ 補助金を活用し、 私たちの弱点と感じて 流総合展』に出展しました。 「販売チャネルの少なさが 世界三大物流展の トで開催された『国際物 - トアップ支援事業」のモンターの「新分野展開 東京ビッグ いまし

ます。 ビーク 応用した製品が評価を得てい エルガ 険感知により けて危険を知らせるシステ を制御するシステムなど、 デューティカメラや、 中でも、 ードのセンサ [^]自動でスピー りせるシステム人と物を見分 -機能を ゥ 危へ

す からの引き合いが続き、大手ゼネコンや建機メー える。 と代理店契約を結 までになかった高性能のて安価ではないものの、 て安価ではないものの、品となりつつあるそう。 制 裁のリス 製品を必要としていた 労災による社会 ク などが 6 で これし きんし ンいまっカー

企業の安全意識が高

を離せません。

の動向

いま

「ブラク

ステ

ル

は主力商

み合わせた現場の見える化シと産業車両からのデータを組 と西氏。現場の平面スキャンステム』の開発が次の目標」 ステムの開発など、次なる。み合わせた現場の見える化 然に防ぐシステム〟 ・ます。 *事故が起こり 現状の ″事故を未 次なる構 くえない シ

■「ウェルガード」 システム概要



が容易におこなえます。

ふくい産業支援センターの事業や施策を活かし、 前向きにがんばる県内企業の取り組みをご紹介

現場の記

の現状に合った。

った製品を

ゔ

一 ウ ェ

ルガ

の開発に

む以前から、

大手建機メーカーコマツのフォークリフトの代理店である同社。4年前に自社開発した、 フォークリフトの接触事故回避支援システム「ウェルガード」をはじめとし、建設現場の 安全に関わる製品の売れ行きが好調のようです。今では開発・販売専門として、別会社の エウレカ株式会社を立ち上げ躍進を続けています。製品の開発から販路の拡大までのプロ セスを社長室長の西篤史氏に伺いました。

屋外 温度・湿度の変化 なセンサ での使用に が必要でし クリフ

トに特化した、

鳴るべ

ングで鳴る、

/適時

役割も全く違います。

も耐える や雨雪

後進時に不意に発生する危険すークリフトは荷役作業中のる一般の自動車用と違い、フる一般の自動車用と違い、フをした。「駐 バックソ を警告する目的で使用される の問い合わせは多かったと話 障害物検知システムについて もの。センサーに期待される クソナ 産業車両用への要望も 当時は既に自動車の が一般化 取引先からは してお

ズをしっかりと汲み取り、全れるようにという現場のニー 全体の安全性アップのために一般的である作業現場。現場 全ての産業車両に取り付けら 新旧・複数メー クリフトが混在することが 全車種対応 力 のために の後付 のフ 全

共インフラで使用される信頼結果、電車や高速道路など公安価なセンサー素子を探した したし、 まっている風潮も感じていま現場の労働安全への関心が高 全国どこでも同じはずです が、 寄与しました。「それまでの 性の高い超音波センサーに行 ありました」。 商圏は福井県内だけで ウェルガー き着きました。 欠点もクリアしたもので、 の定説である風に弱 現場の抱えている課題は 防塵性が 需要はあると確信 ドの完成に大きく 超音波センサ あり、 いと か した つ、 が

展を始めた同社。ふくい産業た拡販を目指し、展示会へ出ての販売と同時に全国に向け後、コマツのルートを活かし 後、ウ 販路拡大をねらう大型展示会への出 コエ ル ガ ドを完成させた

展 で

つの型に 要因 とな つが ています。 7

したこと

福井小松フォークリフト株式会社

産業車両の危険回避システム開発で躍進

14 **F-ACT** vol.25 **F-ACT** vol.25 13